

情報開示

環境保全への取り組み状況や最新の情報を広く知っていただけるよう、さまざまな媒体を利用し、積極的に情報開示につとめています。また、環境調和型経営の体制づくりに向けて環境会計体系を確立し、環境投資など環境経営情報を公開できるよう取り組みを進め、環境保全活動を含めた企業活動の全体を公開する「サステナブル報告書」の発行をめざしています。

情報公開

当社では、環境保全の考え方や活動について、さまざまな立場の方にご理解いただけるよう、環境報告書やインターネットを通じて情報を公開しています。1999年から作成している環境報告書については、今後は「中長期環境ビジョン」の計画内容に沿って、各カンパニー単位の環境報告書を発行することも検討しています。また、川崎重工のホームページには「環境保全への取組」の項目で関連情報を公開しており、過去に発行された「環境報告書」も見るができます。

社内向けにはイントラネットや電子掲示板を通じて情報を発信しているほか、社内誌「かわさき（季刊）」「全社環境ニュース（年2回）」を定期発行しています。

「環境調和型経営」の確立に向けて、「環境報告書」の発行を、将来は企業全体の持続可能性を公表する「サステナブル報告書」へ移行することも視野に入れていきます。



環境会計

環境会計は、将来は財務会計と並んで企業経営上、環境の投資判断が的確にできるように整備・構築していきます。現在は、環境省発行の「環境会計ガイドブック」に準拠した集計手順を「川重版環境会計ガイドライン」にまとめ、カンパニーで試行している段階で、それに基づく効果も含めた全面的な公表は2002年度分からとなります。

今回は、2001年度分を「環境対策設備投資」と「環境保全コスト」について記載しています。「環境保全コスト」には、環境対策設備の維持管理、産業廃棄物および一般廃棄物の処分・リサイクル、環境保全関連製品・技術の研究開発にかかる費用を計上しています。

[環境会計]

(単位:百万円)

年度	1997	1998	1999	2000	2001	
A 環境対策設備投資	450	790	562	751	673	
B 環境保全コスト	水処理	633	625	591	579	566
	廃棄物処理	1,112	1,043	988	928	900
	分析	92	74	93	194	96
	小計	1,837	1,742	1,672	1,701	1,562
	研究開発	4,100	6,000	6,100	5,900	5,700
合計	5,937	7,742	7,772	7,601	7,262	
C.売上高(億円)	11,001	10,069	9,447	8,508	9,146	
B / C (%)	0.54	0.77	0.82	0.89	0.79	

環境保全コストには 1 人件費 2 設備償却費 3 消耗品費 4 電気代 5 請負外注費などの経費が含まれる。研究開発コストについては、1997年度までは償却ベース、1998年度以降については発生ベースで計上。